

高次の能力を捉えるための評価 —パフォーマンス評価のデザイン—

2018年10月17日(水)
16:00～（90分程度を予定）

場所 **京田辺キャンパス 知徳館 C283教室**

近年、「資質・能力」や「アクティブラーニング」が唱えられるなかで、評価でも新しいかたちが模索されています。パフォーマンス評価とは、ある課題や場面で行われる学習者のパフォーマンス（実演や作品など）を手がかりに、概念理解の深さや知識・スキルを総合的に活用する能力を評価する方法のことです。「ルーブリック評価」と呼ばれることもありますが、ルーブリックは評価基準であり、パフォーマンス評価の一部にすぎません。この講演では、さまざまな事例を紹介しながら、客観テストでは捉えにくい高次の能力を捉えるためのパフォーマンス評価のデザインについてお話しします。

講師 **松下 佳代（まつした かよ）氏**
京都大学高等教育研究開発推進センター教授



京都大学大学院教育学研究科博士後期課程研究指導認定退学。京都大学博士（教育学）。京都大学教育学部助手、群馬大学教育学部助教授等を経て、2004年より現職。現在、大学教育学会副会長、日本カリキュラム学会代表理事、日本教育方法学会理事、日本学会会議会員を務める。

専門は教育方法学（特に、学習論、能力論、評価論）。能力はどう形成され評価されるのかに関心を持ち、初等・中等教育と高等教育の共通性と差異に着目しながら研究を進めている。

主な編著書に、『パフォーマンス評価』（日本標準、2007）、『〈新しい能力〉は教育を変えるか』（ミネルヴァ書房、2010）、『高校・大学から仕事へのトランジション』（ナカニシヤ出版、2014）、『ディープ・アクティブラーニング』（勁草書房、2015）、『アクティブラーニングの評価』（東信堂、2016）、Building Networks in Higher Education（Maruzen Planet, 2011）、Deep Active Learning（Springer, 2017）などがある。